

韓国における口蹄疫発生の概要（平成23年4月22日9時現在）

注）韓国政府農林水産食品部公表資料のほか、一部、報道等による情報を含みます。追加情報は下線で示します。頭数等は、国際機関への報告等の際に修正される場合があります。

道・広域市	発生状況		ワクチン接種
	発生市郡	発生件数	
京畿道 (12月15日～)	漣川郡、抱川市、楊州市、加平郡、坡州市、高陽市、金浦市、驪州郡、楊平郡、南楊州市、東豆川市、光明市、龍仁市、安城市、議政府市、華城市、平沢市、利川市	昨年11月29日から本年2月15日までに、3447農場で感染確認。(2月18日 農林水産食品部)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年12月22日に接種を決定し25日から接種開始。 (ワクチン接種・非感染家畜は、出荷・流通可能) ・ 1月13日、全国（済州島を含む）のすべての牛及び豚を対象とした接種を決定。(2009年の飼養頭数 牛：308万頭、豚：958万頭) ・ 2月26日、牛・豚の2回目のワクチン接種を完了。 ・ 2月末から、鹿と山羊37万頭にもワクチン接種。(2月27日付 報道情報) <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン接種清浄国のステータス取得を目指し、ワクチンを定期的に接種。 ・ 2次接種の6か月後に追加接種予定。(本年中に約2,100万頭に追加接種。ただし、新生子畜1,600万頭については、生後2ヶ月で接種) ・ これまでは、0型のワクチンを接種していたが、7月以降は、A、O、Asia1型の混合ワクチンを接種。
仁川広域市 (12月24日～)	江華郡、西区、桂陽区	<p>【畜種別感染農場数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 牛 : 1,918 豚 : 1,457 鹿 : 35 山羊 : 37 <p>計 : 3,447(2月15日時点) (最終確定値は、未公表)</p> <p>【近況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月5日、韓国政府はOIEに対し、4月3日に一連の発生が終息した旨を最終報告。 ・ 4月17日、慶尚北道永川市の豚農家で発生。 ・ 4月20日、慶尚北道永川市の豚農家（17日の発生農場から西に2.4km）で発生。 ・ 4月22日、慶尚北道永川市の豚農家（17日の発生農場から東に2.5km）で発生。 	
江原道 (12月22日～)	華川郡、春川市、横城郡、原州市、平昌郡、鉄原郡、洪川郡、楊口郡、江陵市、襄陽郡、三陟市、寧越郡、高城郡		
忠清北道 (12月28日～)	忠州市、槐山郡、鎮川郡、陰城郡、曾坪郡、清原郡、堤川市、清州市		
忠清南道 (1月2日～)	天安市、保寧市、唐津郡、禮山郡、牙山市、公州市、燕岐郡、洪城郡、論山市、泰安郡		
慶尚北道 (11月29日～)	栄州市、英陽郡、安東市、醴泉郡、永川市、青松郡、慶州市、浦項市、奉化郡、尚州市、盈徳郡、義城郡、聞慶市、蔚珍郡、慶山市、清道郡		
慶尚南道 (1月24日～)	金海市、梁山市		
大田広域市 (2月15日～)	東区		
大邱広域市 (1月18日～)	北区、東区		
釜山広域市 (2月7日～)	沙下区		
蔚山広域市 (2月26日～)	蔚州郡		

【韓国における防疫措置】

- ・ 殺処分：3月21日時点で、約6,200農家の約348万頭（牛約15万（国内の5%）、豚約332万（同35%））
- 一 発生農場及び疫学関連農場の殺処分、周辺農場の予防的殺処分
- ・ 移動制限：危険区域（3km圏内）、警戒区域（3～10km）

※ワクチンの1次接種完了から一定期間が経過したことから、移動制限、殺処分等の基準を緩和（2月10日付）。原則、発生農場のみに移動制限を課し、感染個体のみ殺処分。

【我が国の対応】

- ・ 11月29日、全都道府県に対し、畜産農家への指導を徹底するよう要請するとともに、動物検疫所に対し、韓国等からの入国者の靴底消毒、車両消毒の更なる徹底など水際対策の徹底を指示
- ・ さらに、12月下旬から、以下のような動物検疫を強化
 - 一 地方空港を含め出国エリアや航空機内等における旅客への注意喚起のためのアナウンスの実施、持ち込みゴルフシューズ等の消毒の徹底
 - 一 検疫探知犬を活用した抜き打ち検査（成田空港、関西空港）をアジア便を対象に強化
 - 一 航空機内で発生した厨芥残渣について、その処理施設に対する全国的な立ち入り検査を行い、処理状況を再チェック